

アムスルだより

No. 129 2014年 9月10日



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●手をつないでデート

ーヒメアンドンクラゲー

9月になりました。慶良間が国立公園になって半年がたちましたが、何か変化はあったでしょうか。この夏、ニシハマやマジノハマをのぞいてみるとたくさんの海水浴客でにぎわっていました。ダイビングのときにはみんなゴムでできたウェットスーツを着ているのでケガをしにくいのですが、水着だけのことが多い海水浴の場合は気をつけなければなりません。岩やサンゴに引っかかって傷をつくったり、クラゲなどにさされる危険も多いのです。以前にアムスルだよりで書いたとおり、慶良間からもハブクラゲが見つかったことがあります(アムスルだより No.111)。このクラゲには人を殺すほどの猛毒があるので、十分に気をつけなければなりません。また、去年の9月には座間味で観光客がフクロクジュクラゲにさされる事故が起きました。このクラゲによる事故は、日本で初めてのことでした。人が増えると事故も増

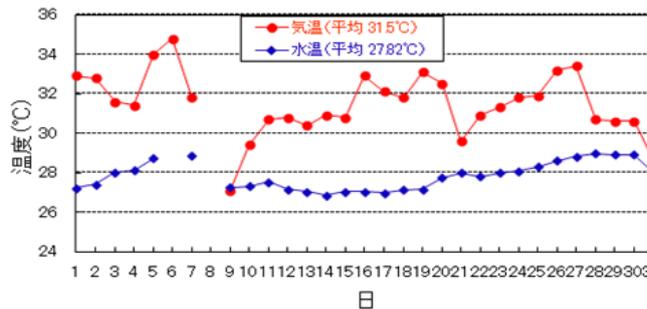
えることが予想されるので、これからも注意が必要です。ところで、これら2種のクラゲはどちらも立方クラゲというグループに属しています。立方クラゲというのは、傘の形が立方体のように四角い箱型をしたクラゲのグループで、多くの種が強い毒をもっており、泳ぐ力が比較的強いのが特徴です。そして、慶良間には、もう一種このグループのクラゲがいます。今回はこのクラゲの話をしていきましょう。

そのクラゲの名前は、ヒメアンドンクラゲといえます。アンドンクラゲというのは、内地で8月中旬ごろからよく見られるようになる透明な立方クラゲの仲間です。‘ヒメ’というのですから、その小さな種類という意味なのでしょうが、アンドンクラゲの傘の高さが3~4cmくらいなのに対して、ヒメアンドンクラゲは傘は7mmくらいしかない、とても小さなクラゲです。そして、アンドンクラゲが透明で、海の中ではその姿を見つけるのがむずかしいくらいなのに対して、ヒメアンドンクラゲは少し茶色がかった色をしています。

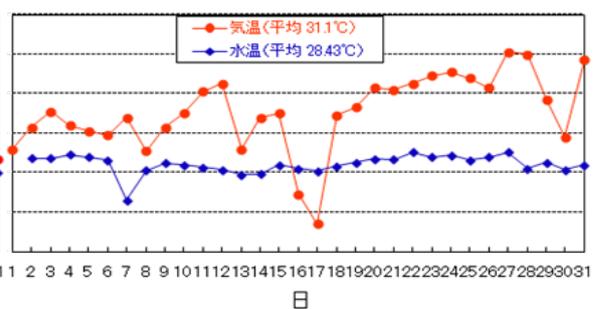
みなさんの中で、ヒメアンドンクラゲを見たことのある人は、どのくらいいるのでしょうか。きっとほとんどいないのではないかと思います。というのも、先ほど書いたように、この種は、サイズがとても小さいうえに、夜行性で、昼間はほとんど泳ぎ回っていないからです。では、昼間はどのようにしているかというと、どうやら海の底や岩の壁などに張り付いてじっとしているのだと思われます。まだ海中でその姿が確認された事はないのですが、水槽の中で飼っていると、死んでしまったのかなと心配になるくらいに傘

定点観測

2014年7月



2014年8月



がペシヤンコにつぶれて水槽の底や壁に張り付いているので、そう考えられるのです。そして、夜になると、傘の四方から触手を長く伸ばし、その小さな四角い傘をピコピコと動かして海中を泳ぎ回ってエサをつかまえます。立方クラゲの仲間ですから、毒も強いかもしれませんが、日本でこのクラゲにさされてひどい被害を受けたという記録はなく、「毒はあまり強くない」と書かれた資料もあります。しかし、実際にはまだあまり調べられておらず、はっきりしたことがわからないため、用心して触らないほうが良いでしょう。

小さくてかわいいクラゲで、泳ぐ姿を見ているのも楽しいのですが、その繁殖の仕方はんしよくもユニークです。ほかのクラゲと同じように、ヒメアンドンクラゲにもオスのクラゲとメスのクラゲがいます。クラゲが繁殖するときには、オスのクラゲが出した精子が、そのときそばにいたメスの体内で卵と出会って受精卵じゅせいらんになります。それがプラヌラ幼生まで育ったあと、一つ一つの幼生がメスクラゲから泳ぎ出て行くことが多いのですが、ヒメアンドンクラゲは違うのです。まず、この種のオスクラゲとメスクラゲが出会うと、それぞれの長い触手をからめるようにつながって、離れられない状態で泳ぐという、ほかのクラゲでは見られない繁殖行動をおこなうのです(写真1)。そして、おそらくこの時に、オスから精子が出され、メスの体内で受精が起きるのでしょうが、受精卵はメスの体内で育



写真1 手をつなぐオスとメスのクラゲ

つのではなく、1000～2000個ものたくさんの受精卵がゼリー質でつまれた‘卵塊’らんかいとしてメスから放出され、やがてそこから幼生が泳ぎだすのです。こうした卵塊の放出は、エフィラクラゲというグループの仲間にもおこなうものがありますが、めずらしいことです。そして、産まれたヒメアンドンクラゲのプラヌラ幼生は、その後海底に付き、一次ポリプ、そして二次ポリプとなって数を増やしながら暮らし、やがてそこから新たなクラゲを産み出すようになります。

ヒメアンドンクラゲは小さな小さなクラゲですが、その暮らしぶりは、ユニークで魅力的なたくさんの不思議に満ちているのです。

● 阿嘉島の海より

今年の9月8日は旧暦の8月15日にあたり、阿嘉島では毎年この日、十五夜の満月の下で獅子舞が行われます。島の若者が輪になって、輪の真ん中で獅子が踊ります。小さな子供達も集まり、この時獅子に噛んでもらうと健康で元気な子供に育つと言われていました。その後、獅子は集落を一周しながら、各井戸に立ち寄り、島民の健康や島の発展を祈願します。昔、阿嘉島のような小さな島では、井戸から汲み上げられる真水はとても貴重なものだったのでしょ



翌日には海神祭(海の御願)が行われ、航海安全と豊漁が祈願されました。これも阿嘉島で昔から行なわれている大きな神行事の一つです。